

旭川歯科医師会だより 77

8020を達成するフッ化物洗口

今年5月21日、道北地域旭川地場産業振興センターにおいて、講師に秋野憲一氏（北海道空知総合振興局保健環境部主任技師）をお迎えし「北海道歯・口腔の健康づくり8020推進条例をどう活用すべきか？」

歯科医療及び学校・施設関係者に期待される役割とは」との演題で、歯科医療保健、幼稚園・保育所、学校保健及びPTA関係者を対象とした公開講演会が開催されました。

主催は旭川歯科医師会で、共催として上川中部地域歯科保健推進協議会、北海道歯科衛生士会旭川支部、後援として旭川市教育委員会、旭川市PTA連合会にご協力を戴きました。

講演会では8020推進条例が制定された背景である道民の口腔健康状況について、「子供の虫歯が全国でワースト3」（その後平成22年度はワースト2に！）であったこと、道教育委員会の調査で「道内の子供は全国平均に比べムシ歯が多く、視力も劣る」こと、道民は「全国平均に比べ5〜10歳程早く歯を失っている」ことが挙げられました。

また高齢者の統計で「歯の数が少ない程、健康悪化の危険度が上がる」こと、

「かかりつけ歯科医師があると累積生存率が高い」ことが指摘されました。

「虫歯になったら治療すれば良いだけの話」という考えもありますが、風邪や骨折などとは違い、「虫歯は治療しても元に戻らない病気」です。虫歯を削って被せても10年以内に半分は再治療になる事が統計的に判っています。そして治療を繰り返す度、歯は消耗して、やがては抜歯という流れは私たち歯科医が日常よく遭遇するパターンです。

以上の事から、生涯にわたり十分な生活の質を保持できる歯の数「8020（ハチマルニイマル）」80歳になっても20本以上の歯を残す」を達成するためには、子供の頃から「有効な虫歯予防法」を行う事が重要となります。有効な虫歯予防

法とは「科学的根拠のある虫歯予防法」で「フッ化物（フッ素）」、「シーラント（歯科医院で虫歯になりやすい歯のミゾを埋める方法）」が代表的です（米国予防医学研究班の資料より）。

虫歯予防も「個人で行う虫歯予防」と「集団で行う虫歯予防」があります。よく「虫歯予防は各個人が自己責任で行えば良いのでは」という意見を耳にします。しかし「個人で行う虫歯予防」は追跡調査により継続性が低い事が判っていますし、各家庭の健康観の違いにより健康格差が生じるなど限界があります。「集団で行う虫歯予防」は一旦システムを作ってしまったら強い継続性を持つ事、集団を構成する個々に平等な予防効果が期待できる事、個人の家庭環境に左右されにく

い、などにより「集団で健康の質の底上げ」ができ「集団内の健康格差を小さくできる」優れた方策です。

学校など、集団で虫歯予防を行うには「フッ化物洗口（フッ化物を使ったブクブクうがい）」が現場の負担が小さく、個人の努力やスキルによらず平等に効果を望める事、また費用対効果の面でも最適な方法です。現在、旭川市では一昨年10月の旭川市議会における「学校等におけるフッ化物洗口を推進する決議」をうけ、「旭川市内の全小学校におけるフッ化物洗口」の実施を目指しています。旭川歯科医師会も旭川市民の健康に有益であるとの認識から、この方策を支持し協力しております。どうか市民の皆様もご理解とご協力をお願い致します。



～お口爽やかですか～